

現地視察報告

香川県小豆島等、男木島、高見島現地視察について(報告)

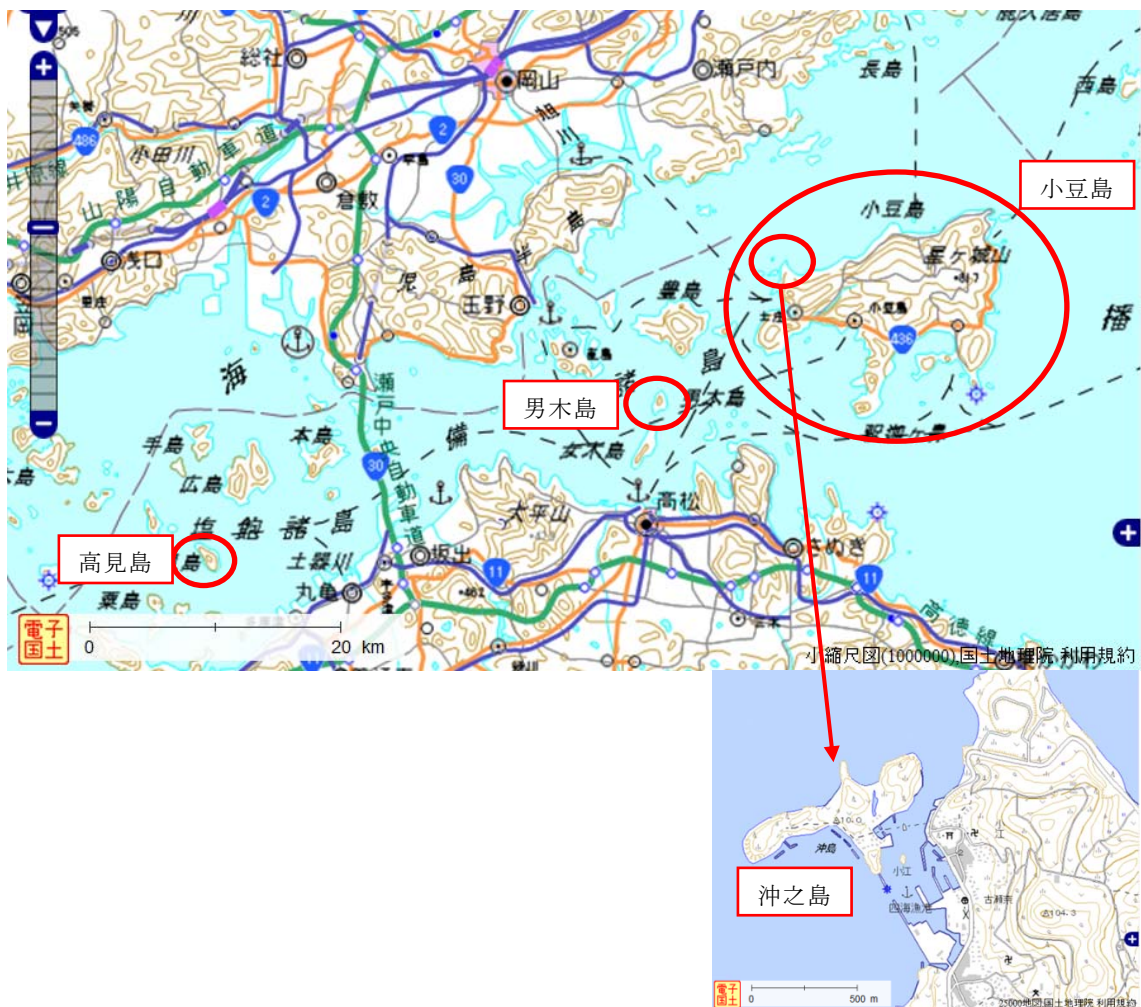
1. 視察日時：平成25年1月31日（木）
（小豆島・沖之島）
～平成25年2月1日（金）
（男木島・高見島）

視察委員：山下委員、渡邊委員

目 的：小豆島（沖之島含む）は、未指定離島で最大の離島であり、指定離島との相違点等を把握。

男木島、高見島は、現行指定基準の人口要件100人と同程度の規模であり、小離島の現状等を把握。

位置図



2. 視察結果

(1) 小豆島、沖之島の概況

① 小豆島について

- ・面積 153.29 k m²
人口 30,167 人（平成 22 年国勢調査）
高齢化率（平成 22 年国勢調査）34.3%
人口増加率（H12→H22）△12.7%
- ・高松－土庄は高速艇で約 30 分。往復 1,340 円。
航路数 16 便（高松－土庄高速艇）。
早朝は、通勤、通学客多数。
- ・児童・生徒数

小豆島町

保育所 231 人、幼稚園 158 人、小学生 695 人、中学生 419 人
（「小豆島町勢要覧 2010 資料編」より）

土庄町

保育所 174 人、幼稚園 216 人、小学生 668 人、中学生 406 人
（「まちの指標－町勢要覧資料編－平成 22 年土庄町」より）

（産業の状況）

かつて瀬戸内海海運の中心として栄え、第 1 次産業だけでなく、醤油やごま油、佃煮等の第 2 次産業、観光等の第 3 次産業までバランスよく産業が存在。最近では、オリーブのブランド化に成功し、オリーブ産業が成長している。

視察した東洋オリーブ株式会社は、昭和 30 年、豊島でオリーブ 3 万本の植栽を始め、現在も農園拡大と収穫増に取り組んでいる。



東洋オリーブ株式会社



東洋オリーブ株式会社の工場

（医療の状況）

総合病院である小豆島町立の内海病院、土庄町立の土庄中央病院の 2 つがある。両町立病院とも人口減少等による患者

数の減少が病院経営の悪化につながっており、両病院を統合して、新病院を建設する準備が進んでいる。

新病院の基本構想では、診療科は内科(循環器、消化器等)、小児科、外科、産婦人科など計 13 科を予定しており、統廃合を予定している中学校とその周辺を含む町有地にて、平成 28 年春の竣工・開院を目指している。

土庄中央病院

- ・職員数 183 名。
- ・常勤医師 11 名いるが、地元出身の医師は 1 人で、単身での医師多数。
- ・医師は、いついなくなってもおかしくない状況。今後、統合後に確実に残るといえる人は 1 人もいない。
- ・島内救急は、エリアが広いため、人手不足に陥ることもある。



土庄中央病院



意見交換会の様子

(福祉の状況)

主な介護サービス、施設

介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービス、訪問介護、小規模多機能型居宅介護施設「はまひるがお」等

小規模多機能型居宅介護施設「はまひるがお」

小豆島内でも高齢化率が高い三都地区において、近隣に医療施設や介護施設が存在しないため、医療や介護が必要な場合には、地区外の施設利用を余儀なくされていた。昨年 9 月にオープンした本施設では、通所介護（デイサービス）や訪問介護、短期入所（ショートステイ）に加え、医師による健康相談も実施することにより、介護サービスの提供だけでなく、要介護者に対する医療面の充実を図っている。

また、小豆島町では、地域密着型医療サービスに係る独自

報酬基準を設け、小規模多機能型居宅介護施設が健康相談を実施する場合には、介護報酬を加算し、事業者を支援することで、介護サービスだけでなく、近隣に医療施設がない三都地区での要介護者への支援の充実を図っている。



小規模多機能型居宅介護施設「はまひるがお」の様子

また、小豆島町では、地元住民のコミュニティ維持のため、小学校区を単位として、同様の施設を整備する予定。

（移住・定住の促進に向けた取り組みについて）

小豆島の2町は、早くから移住・交流推進協議会を設立し、空き家バンクの開設、島暮らし体験ツアーの実施など、移住・定住施策に先進的に取り組んでいる。

移住希望者用中・長期滞在施設（お試しハウス）

小豆島町では、「いきなりの移住は不安」という移住希望者を対象に、実際に島暮らしを体験する場を提供するため、中・長期滞在施設を準備している。

施設には、最低限の家電製品、布団、食器等を準備し、来島から最短1週間から最長3ヶ月の利用が可能。



中・長期滞在施設



中・長期滞在施設（近景）

<視察時には、埼玉県所沢市からの移住希望者が滞在。>

(その他)

- ・ 少子高齢化の進行、若年者の流出等により、人口の減少が長期にわたり継続している。
- ・ 人口減少や町の財政悪化に対応して、病院や小中学校の統廃合を行っている。
- ・ 小豆島町長は、地域の活性化のためには、小学校は統合すべきではない、との認識。

(指定に向けての地元の意向)

- ・ 土庄町長、小豆島町長とも、小豆島の活性化のために、指定を希望している。
- ・ また、小豆島町長は、島々が元気になる大前提は、航路や海運の充実であり、そのためには、陸と海の均衡のとれた交通政策が不可欠との認識。
- ・ 香川県も、両町長の意向を受け、国土交通大臣への要望など、積極的な支援を行っている。

(指定後に予定している事業)

- ・ 人材の確保及び育成の充実を図るため、離島活性化交付金の活用を考えている。



香川県による小豆島の
現状等説明
(高松港旅客ターミナル会議室)



土庄・小豆島町による
小豆島の概況説明
(土庄町役場会議室)

② 沖之島について

- 面積 0.18 km^2
人口 75 人（平成 22 年国勢調査）
高齢化率（平成 22 年国勢調査）30.7%
人口増加率（H12→H22）△22.7%
- 町営渡船が 1 日 14 便運航。料金は 100 円。小豆島の沖合約 100m に位置しており、住民の生活基盤を小豆島とほぼ同一となっている。



沖之島の港



沖之島の港の船

(2) 男木島・高見島の概況

① 男木島について

- ・面積 1.37 k m²
人口 162 人（平成 22 年国勢調査）
高齢化率（平成 22 年国勢調査）58.7%
人口増加率（H12→H22）△34.6%
- ・高松－男木は、フェリーで約 40 分。片道 500 円。
航路数 6 便（8 / 1～8 / 20 は 12 便）
早朝便は乗客及び車輦で混雑していたが、日中の便は乗客少数であった。
- ・児童・生徒数(平成 21 年度)
幼稚園 0、小学生 0、中学生 0

(医療の状況)

男木診療所があり、市の嘱託医師 2 名、看護師 3 名が、女木診療所と兼務して週 4 回の診療を行っている。

(福祉の状況)

介護サービスについては、現在通所介護、短期入所生活介護事業所として、デイサービスセンター男木「遊遊の館」があり、NPO 法人ハイ・フォロー・ステーションが介護サービス事業者の指定を受けて活動している。

デイサービスセンター男木「遊遊の館」

2 階へのエレベーターの設置、建物内の壁を出入口にする等、利用者が利用しやすい環境づくりに腐心されていた。また、隣の女木島の島民も通所しており、男木島、女木島の高齢者福祉の重要な拠点となっている。

意見交換した代表は、本土の高松市出身であるが、妻が男木島出身。施設の運営、整備のみならず、島民との調整に欠かせない中心的な存在。

また、介護認定されてない島民もセンターを訪問するなど、島民の憩いの場となっている。



意見交換会の様子



施設の視察状況

(交流などの状況)

- ・「瀬戸内国際芸術祭 2010」の会場となったことで、芸術作品が新たに島の観光資源になるとともに、島民と芸術家等、島外の人々による新たな交流や活動が生まれている。

男木交流館

男木港にある「男木交流館」は、平成22年度に整備。

芸術祭の主要なアート作品の一つとして、来場者やアーティストと島民の交流の場となるとともに、地域の活性化や観光振興に寄与している。



男木交流館の外観



男木交流館の視察状況

(島内の状況)

- ・島内の道路幅員は非常に狭く、急坂であるため、車輛の通行が一部に限られている。



島内道路の状況

- ・道路法面は、石垣積みとなっている箇所が多数あり、景観よく情緒があるが、雨水の浸透により崩落したことも有ること。



道路法面の状況（石垣積み）



道路法面の近景（石垣積み）

- ・土砂崩れ対策として、一部地区において、法面の整備を実施。



道路法面の状況（整備後）



道路法面の状況（整備後）

- ・島内空き家

解体撤去を要する家については、地権者と連絡とっているが、なかなか解体撤去に応じてもらえず、放置されている。



島内空き家の状況

(その他)

- ・ 高松から島に来る航路の最終便が18:10発。この時間前に終業する職場は少ないため、島の若年者が通勤しようにも困難であることから、島外に移住してしまう。

社会実験を1ヶ月実施したが、実績が乏しく、打ち切りとなってしまった。

- ・ 男木出張所での意見交換

男木地区連合自治会会長、中條氏、島民、高松市、香川県等との意見交換。

島民より、今後の島内の整備においては、現在の景観を維持しながら整備して欲しいとの意見があったが、危険性がある場合もあり、限られた財源の中で、観光等の交流と生活環境の維持のどちらかに重点を置くか地元でも意見が分かれている



意見交換会の様子

② 高見島について

- ・面積 6.5 k m²
人口 43 人（平成 22 年国勢調査）
高齢化率（平成 22 年国勢調査）79.1％
人口増加率（H12→H22）△36.4％
- ・多度津－高見は、フェリーで約 30 分。片道 480 円。
航路数 4 便。航路は高見島経由で佐柳島まで。
昼間の便に乗船したが、ある程度の乗客。
- ・児童・生徒数
幼稚園 0、小学生 0、中学生 0

（島の状況）

- ・人口減少、高齢化が著しく進展しており、島民の平均年齢は約 80 歳。
- ・商店、病院はないため、生活環境の多くを本土側に依存している。
- ・漁業が主要産業だが、島民の中には、本土の多度津港の近くに移住し、通いで島周辺まで漁に来る者も多い。
そのため、多度津港近くの漁船は、ほとんど元高見島民の船とのこと。
- ・島で話を聞いた地元島民は、島で唯一の民宿を経営しながら親子で潜水によるタイラギ漁を営んでいる。海底の地形については、非常に精通している。

（医療の状況）

町営の診療所を設置して、看護師が週 2 回従事している。
また、県より派遣された医師が週 1 日医療を行っている。

（福祉の状況）

特になし。

（交流などの状況）

空き家バンク制度を立ち上げるなどしているが、多度津町としては、本年秋に「瀬戸内国際芸術祭」が塩飽諸島で初めて開催される予定となっており、この高見島も会場の一つとなっているため、同芸術祭を契機として、その後の交流人口及び移住定住者の増加等による地域の活性化につなげることができるよう、各種施策を実施する必要があると認識して

いるところ。

まず、手始めとして、今年の4月から本土までのフェリー料金について、妊産婦、人工透析で本土へ行く際は全額補助、病気等でやむなく本土へ行く際は半額（月2回）とし、定住しやすい環境を作ることとしているとのこと。今後は、瀬戸内国際芸術祭、島民の状況を見て、新たに打ち出していこうかと考えているとのこと。

（島内の状況）

- かつて漁業等で栄えた際には、平地がなく、島の斜面に石積みをして、瓦葺の立派な家屋が建築されたが、通路が狭く、車も登れないような場所のため、現在、住民は埋め立てた平地に住んでおり、斜面の住宅はほとんど空き家の状態。



島内家屋の状況



島内家屋の状況（石積み）



島内家屋の状況（石積み）



島内道路の状況

- ・ 高見島出張所で、漁師を営む島民と意見交換。



意見交換会場



意見交換の状況